

## 令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立啓北小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 奥山 志穂子
- 4 キーワード：子ども・地域・教職員 みんなの笑顔があふれる学校

### 1 はじめに

帯広市立啓北小学校は、帯広市北部に位置し、昭和58年に北栄小学校と栄小学校の児童の増加に伴い新設された。開校以来、心豊かにたくましく生きる子どもを育むために、子どもや教育を取り巻く課題に対し、教職員も真摯に学び研鑽しあう学校風土は長く受け継がれ、通年研究・毎年公開を積み重ねている。

学校と地域のつながりも深く、平成19年度には文部科学省の委託を受け、帯広市内のモデル校として学校支援地域本部事業の基盤がつくられた。形態は柔軟に変化しながらも現在も様々な教育活動への理解や協力は変わらずに、常に温かく子どもを見守り学校を支えてくれている。開校43年を迎えた今年度の児童数は333人で通常学級12学級、特別支援学級6学級、教職員42人で構成され、子どもも大人も「つづける（継続）・はじめる（挑戦）・かわる自分」を目指し、コミュニティ・スクールとしての機能を生かした教育活動を推進しているところである。

### 2 啓北小学校コミュニティ・スクール協議会

帯広市では、令和元年より段階的に学校運営協議会設置を進め、令和4年度には市内39校、全小・中・義務教育学校が、コミュニティ・スクールとして教育活動を進めている。本校は令和元年に、既存の啓北小学校区地域ネットワーク委員会コーディネーター、PTA、啓北地区生涯学習推進委員会、放課後居場所づくり事業の「けいほくきつづくらぶ」、児童保育センター、読み聞かせの会の代表により協議会を構成した。

現在は、帯広大谷短期大学地域共生学科キャリアデザインコースにて社会教育主事養成課程を担当している特任准教授を含め8人の委員が熟議を重ね、子どもの笑顔が広がる特色ある教育活動を進めている。

コミュニティ・スクールで共有されている目指す子ども像は「保護者や地域住民と進んで関わり、楽しもうとする子ども」である。

#### (1) 啓北みんなの盆踊り

ネットワーク委員会のコーディネーターが中心となり企画運営されコロナ禍を経て13回の歴史をもつ行事である。

児童玄関前に設営された大きなやぐらを囲んで行われる盆踊り、PTA有志やコミュニティ・スクール協議会委員が所属している各団体による縁日コーナーなどに、今年は300人を越える子どもの参加があった。

浴衣姿の子どもたちとともに踊りの輪に参加する卒業生や幼児、高齢者の姿も見られ、地域のかげがえのないイベントの一つとして位置付けている。

#### (2) ふれあいコンサート

地区生涯学習推進委員会主催で、毎年開催されている音楽コンサートである。今年度は9月に行われ、様々な楽器奏者15人が来校し、子どもたちに人気のアニメの主題歌や歌謡曲、クラシックなど様々なジャンルより5曲の演奏があった。

迫力あるパフォーマンスに手拍子が生まれ、自然に体を動かしながら口ずさんだりする子どもも多く、ライブの一体感を味



啓北みんなの盆踊り



ふれあいコンサート

わったり、鑑賞のマナーを学んだりするとともに、学習発表会への意欲付けにもつながる貴重な機会となっている。

#### (3) 土曜寺子屋・親子で運動やるんDAY!!

けいほくきつづくらぶとPTAのコラボ企画で年間2回程度土曜日に子どもと大人が気持ちよく汗を流しながら楽しく運動し、交流を図る機会を設けている。子ども対大人のしっぽりゲームや、玉入れ、ころがしドッジボールなど保護者同伴で参加可能な未就学児も含めて、みんなで楽しめるよう工夫されており、毎回多くの親子が参加している。

子どもは異学年と交流し友達の家族とふれあうことができ、また、大人同士のコミュニケーションの輪も広がっている。



大人ってすごい！(親子玉入れ)

### 3 PTA組織と「プロジェクトチーム」の活動

本校は令和4年度より「大人のやってみたいを実現し、子どもとともに笑顔になれる活動の構築」を目指し、新たなスタイルを導入している。新入学時に入会意思の確認手続きを行い、学級選出の役員選出は廃止、活動ごとに協力者を募るプロジェクト方式を導入し、できる時にできる形で無理のない、大人のアイデアを最大限に活かした活動を進めている。

環境整備や行事のサポート、朝の見守り活動など多くの学校で行われている事業に加え、特色ある活動として「感動体験プロジェクト」がある。これは、子どもたちの心に残る特別な授業を届けたいというプロジェクトメンバーによる企画であり、教科と関連付けながら発達段階に応じた子どもの知的好奇心を高め、生命の尊さを感じるような特別授業を実施している。今年度は、1年生「昆虫博士」2年生「タイムカプセル」3・6年生「性教育」4年生「牛乳から食を知る」5年生「理科実験」6年生「卒業コンサート」を実施した。(一部は今後予定)



昆虫に興味津々(1年生)



赤ちゃんになってみよう(3年生)

### 4 エリア・ファミリーを基盤とした幼保小中連携

帯広市では、中学校校区(エリア)を基盤として、小・中学校や幼稚園・保育所、児童センター等と様々な連携を図り、子どもの学びと育ちをつなげる取組を進めている。本校を含めた小学校3校、中学校1校に四つの幼保、三つの児童センターで「一中エリア」が構成されている。中学校の定期テスト週間に併せたノーメディアデーの実施や、SNS被害の実態をテーマにしたエリア講演会の開催等、エリア内の縦横のつながりを工夫し、子ども、地域、教職員間の交流の輪がより強く、大きくなるよう進めているところである。



みんなで学ぶエリア講演会

### 5 おわりに

次世代を担う子どもたちの心身ともに健やかな成長には、自分とは違う考えや背景をもつ仲間とともに学ぶよさを実感できること、生き生きと輝く大人たちとの関わりから生まれる安心感とともに自己肯定感の高まりが大切である。様々な経験の積み重ねを通して、あこがれの気持ちや将来への夢や希望が生まれるきっかけやたくましく成長する糧となるよう、今後も目指す子ども像を共有しながら、子ども、保護者・地域、教職員が笑顔でつながる学校づくりを進め、地域全体のウェルビーイングを高めていきたい。